

是彼員會

元中国語奨学生として

宮 秀夫（会員）

見掛けたことが本協会との御縁の初めでした。その当時、私は法学部の学生であり中国大陸にも中国

2022年は日中国交正常化50年ということで、新聞紙上などでもその言葉を目にすることも少なくありません。振り返れば往時茫茫として今更ながら光陰如箭の感に堪えません。国交正常化

語にも特に接点があった訳ではありませんでした。ただ高等学校の生徒であった頃に教科書以外の漢籍を少々読むことがあり、我が国で従来から行われていた漢文訓読がすべてではないという漠然とした思いがあったにすぎません。もとより文学部で中国文学を専攻

む老練な専門家で、当時の私にはその学識と経験を十分に認識できなかったのは、今にして見れば残念なことでした。学習が進むにつれ、長期にわたり受講を継続することには障害の起ることもあり、それなりに努力を要することもありました。その一方で、神田の古書店にて本協会の会員の先生に偶然邂逅して何となく意を強くしたこともありました。

にあつて、我が国のマスコミはおおむねこれに好意的で、賞賛の言葉を惜しまないものも多く見られました。しかしながら、その実態は明らかではなく、竹のカーテンといわれたのもやむを得ませんでした。そんな中でピンポン外交から始まって、にわかには米中接近が現実のもの

するのではありませんから、古来の典籍を北京音で読むなどということは現実のこととしては考えてもおりませんでした。採用面接の際に担当委員会の先生から「あなた方は余技として学ぶことになる」といわれた時に、それならでき

爾来幾星霜、その間には改めて学習を進める機会も少なからずありました。が、語学としては、今もって余技の域を出ません。それでも簡単な会話がどれだけ意思の疎通に役立ったか計り知れません。一方で本協会の活動も時代の趨勢に伴い、自ずから変遷もあり、中国語奨学生の制度廃止により、新たな後輩が発生しないことになり、やむを得ないことながら、いささか残念な思いがないわけではありません。

化への動向は周知のとおりです。

さて、本協会の中国語奨学生については、事前の予備知識もなく、大学の学部事務所の掲示板で偶然募集記事を

学習が始まってみると、夜間講習会というところで、受講生は若手サラリーマン風の人やら戦前満洲国での学習歴がある初老の紳士やら様々で、授業は難しいものではありませんでしたが、指導される先生は戦前からの経験に富

例えば本協会の恩恵には感謝して余りありというべきです。それにもかかわらず浅学菲才の身の為すところ無きただ慙愧の至りです。